

# 「事業名:福島社会イノベーション創造事業」 2022年度補助事業の実績・成果

早稲田大学 連携市町村:福島県双葉郡広野町

連携市町村との協定締結日:2019年1月18日

現地拠点:福島県双葉郡広野町下北迫苗代替22-2文化交流施設ひろの未来館(1階高等教育研究室)

## 事業のポイント

- ・「ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ(SI構想)」の具体化を通じて、「復興と廃炉の両立」が可能な地域社会の将来像の構築
- ・原子力災害からの創造的復興を通じた持続可能な社会を形成する社会イノベーションの創造と災害文化形成モデルの研究開発
- ・原発事故と原子力災害の教訓を活かした学術文化の新しい「知の拠点」のあり方の研究
- ・一貫した“ふるさと創造”への思いを持続的に学びに活かすプラットフォームの構築と「社会イノベーション」の人材育成

## 今年度の活動実績

### 【SI構想実現に向けた3つの研究会中心の活動】

①研究者中心の研究会、②地域対話、③実証実践(パイロットモデル構築)、④オープンエンドな対話の場

➡研究成果の共有・議論:ふくしま学(楽)会およびシンポジウム等

➡人材育成:トランスサイエンスを対象とした対話の実践、自分ごと化のプロセスを重視した学びの場を創出

### (1) 1F廃炉の先研究会

①: 1F廃炉プロセスと地域社会との関係および1F廃炉の将来像の多様な選択肢について研究調査

②③: 「1F地域塾」: 高校生を中心とする多様な住民と多様な専門家(行政・東電も含め)とによる「対話の場」の実践

### (2) 創造的復興研究会

①: 2050年の福島浜通り地域社会像を議論し、その象徴としての1Fの世界遺産(文化遺産)登録をめざす

②③: 福島関連授業に参加した大学生の視察を通じた「自分ごと化」のWS、多くの地域対話を実践

### (3) ふくしま学(楽)会

④: 多様な専門家(行政も含め)と多様な市民(住民)による「対話の場」の構築(年2回)

専門知と地域知の出会いを創出

## 今年度の成果

- ・福島復興における地域再生と社会イノベーション創造モデルの明確化
- ・ふるさと創生学における多世代・多地域・多分野の共創と社会イノベーション人材育成
- ・多様な主体の広域連携の構築と帰還困難区域への地域再生モデルの波及

朝日新聞 DIGITAL  
トップ 社会 経済 政治 国際 スポーツ オピニオン IT・科学 文化・芸術

朝日新聞デジタル > 記事  
(東日本大震災12年) 原発の将来像、立場超え探る 対等に対話重ね、学び合う 1F地域塾

無料記事  
2022年11月11日 16時30分

世界最悪クラスの事故を起こした東京電力福島第一原発について、意見を交わす場が昨夏つくられた。震災から11年を超える時を経て、地元の教師や弁護士、学生、東電の担当者らが立場を超えて同じテーブルにつき、ひとつの議論を出すためではなく、原発の将来像を、対話の中から探る。(福地憲太郎)

ふくしま学(楽)会  
ふたば未来学園高生ら参加

世代を超え復興に知恵  
富岡町

富岡町で開かれた「ふくしま学(楽)会」の様子。参加者らは、1F廃炉の将来像について議論し、意見を交わした。

第10回ふくしま学(楽)会  
2022年8月、富岡町で開催

「福島民報」2022年8月1日 11頁